



浜名湖無人島 ガイドブック



～無人島にすむいきものたち～



**WONDER
LAKE
PROJECT**

浜名湖ワンダーレイク・プロジェクト

このプロジェクトは日本財団

「海と日本プロジェクト」の一環で行っています。

浜名湖 無人島ガイドブック

浜名湖と太平洋が繋がる今切口近くに位置する弁天島。静岡県西部の浜松市の中でも、西に位置する舞阪町弁天島は、JR東海道線弁天島駅から南へ進むと、湖に浮かぶシンボルトワーの鳥居が目印です。鳥居の下には無人島(いかり瀬)が広がり、さまざまな植物や鳥がみられる他、海の生物の宝庫。日本でも貴重なアマモ場(生物の生息に関わる海草の畑)があるのも特徴です。

人が暮らしていない無人島だからこそ、ここでしか出会えない自然観察の他、いかり瀬に渡って思わず裸足で走りたくなるような美しい砂浜での体験など、自然とふれあい学んだり、アクティビティが楽しめたり。無人島ガイドブックは、いかり瀬を訪れ生き物観察をする子どもたちや生き物好きの人たちも利用できるガイドブックです。

さあ、みなさんも貴重な自然を心で体で感じてみませんか。

INDEX

3 いかり瀬の学習ポイントMAP

いかり瀬のいきものを育むアマモについて

4 アマモの畑(群生)種・花

5 コアマモの畑(群生)

いかり瀬に住むいきものたち

6-7 魚類

8-9 カニたち

10-11 エビ・イカ

12 タコ・ウニ・ヒトデなど

13 ヤドカリなど、巻貝

14 二枚貝

15 鳥、植物



いかり瀬のアマモ場（群生）

※周年（いかり瀬の潮間～潮下帯）観察できます



←コウイカの卵

アマモの花→



アマモの種→



アマモの現状

5年前までは浜名湖全体で800ha以上あったアマモ場が現在では1ha以下に減少しており、弁天島のアマモ場は唯一残された貴重なアマモ場です。

アマモ場は海のインフラストラクチャー（基盤になる場所）と呼ばれ、さまざまな水棲生物を育む“海のゆりかご”の役目をしています。

貴重なアマモ群集

日本全域でアマモ場は著しく減少しているなかで、いかり瀬のアマモ場は生態系を保っています。それは、地球の温暖化や浜名湖の環境変化に耐性を持っている可能性があり、研究の対象にもなっています。

いかり瀬のコアマモ場(群生)

※周年(いかり瀬の潮間帯～潮下帯)観察できます



←アサリ

アサリ漁→



←コアマモの種(拡大)



コアマモの現状

コアマモは環境変化への適応力に優れ、アマモほど減少が著しくない反面、日本では研究者が少なく実体や生態が完全に解明されていません。

種も非常に小さく採取が困難ですが、2019年より播種(種まき)や移植をおこなった結果、浜名湖ではアマモより増殖力が強く、鳥の食害にも大きな影響を受けませんでした。海水が澄んだ砂底の潮間帯(干満で水没したり露出したりする場所)に繁茂(勢いよく育つ)ことが分かってきました。

コアマモは葉が短く、役目としての消波や潮の流れを抑制する効果はアマモより少ないですが、2020年にコアマモ場にアサリ漁場ができたことで、漁業者の間ではアマモ場同様、コアマモ場の必要性が再認識されています。

いかり瀬にすむ魚(周年)



ハオコゼ

堤防や岩石付近に周年生息。小エビやゴカイなどを食べる。トゲの毒に注意!!



カエルアンコウ

頭についた突起(竿)で誘き寄せて小エビや小魚を食べる



アミメハギ

アマモ場や岩礁、土手などで周年よく見られる



アカオビシマハゼ

浜名湖ではダボとも呼ばれ、雑食なため何でも食べてしまう



アマモ場で子～親が見られ、キナッコ、イナ、ボラと成長により名称が変わる



ネズミゴチ

エラの上にトゲがある。粘液を出すため、ネバリゴチともいう

いかり瀬にすむ魚(春から秋のアマモ場)



タツノオトシゴ

英語名でシーホース(海の馬)。春から秋に見られる



ヨウジウオ

楊枝のように細長い魚。春から秋にかけてアマモ場で見られる



ギンポ

カミノリ魚といい、強くにぎると背びれのとげで手が切れてしまうので注意



イシガレイ

いかり瀬のアマモ場で周年見られる地元の代表的な魚のひとつ



ヤカタイサキ(コトヒキ)

夏～秋に幼魚が見られ、浜名湖ではカッターと呼ばれ、群れも観察できる



ヘダイ

秋～晩秋に見られ、クロダイという魚にも似ている

いかり瀬にすむカニ(春から秋)



台湾ガザミ

砂泥底に生息。写真はオスで爪が長く青紫色。メスは緑色で爪が短い



ガザミ

浜名湖では春から晩秋に見られ、冬は活動が鈍り砂に潜っている。ワタリガニの仲間



ジャノメガザミ

砂泥底にすみ、3つの星のもようから上等兵とも呼ばれる



ヒラツメガニ

春から晩秋に見られ、きれいな砂底にすんでいる



モクズガニ

奥浜名湖にすむが、晩秋から冬には南浜名湖でも見られる。上海ガニの一種



ヒシガニ

爪や体の動きがゆるやかで、注意深く探さなければ見つけれない

いかり瀬にすむカニ(春から秋)



イシガニ

アマモ場で見られる。攻撃体制をとるため、浜名湖ではトビツキと呼ばれる



スナガニ

小さな体で時速16kmで走る。鳥の攻撃をかわすためトリッキーな動きをする



トラフカラッパ

きれいな砂底で見られる。カラッパとはインドネシア語でヤシの実



メガネカラッパ

泳ぎがうまく擬態している。強力な爪で貝の殻を切って食べる



キンセンガニ

潮間帯のきれいな砂浜に多く見られ、泳ぎも砂潜りも上手



マメコブシガニ(コブシガニ)

春から秋にまれに見られるカニ。砂底に生息している

いかり瀬にすむエビ(初夏から晩秋)・イカ



春から夏に見られるが、浜名湖では減少傾向。
夏から秋に70~100万粒抱卵



モエビ

春から晩秋アマモ場に生息。透明で見つけにくい。まだ生態が明らかでない



アマモ場の代表的生物。世界9237種、日本では411種。海の掃除・魚のエサにもなる



ワレカラ

周年見られ、甲羅がもろく割れやすい。アマモ場の藻を食べ魚のエサにもなる



春から初夏にアマモ場で産卵。スミイカとも呼ばれ墨汁のような液体を出す



ヒメイカ

初夏から夏にアマモ場で見られる。世界最小のイカで背中に吸着器がある

いかり瀬にすむエビ(春から秋)



カメジャコ(ヤドカリに近い種)

初夏から夏に産卵、長い海底トンネルを掘ってプランクトンなどを食べる



テッポウエビ

巣穴を掘り雄雌つがいで生息。スジハゼや穴ハゼと共存することも



ツノモエビ

初夏から秋の代表的なアマモ場のエビ。コシマガリエビと擬態している



コシマガリエビ

初夏から秋の代表的なアマモ場のエビ。発見するのが難しい



アカアシ(クマエビ)

春から秋に見られ、味も見た目もよく、親しまれている



シバエビ

夏、アマモ場で小エビが観察でき、晩秋から冬に見られる。ポツソーとも呼ぶ

いかり瀬にすむタコ・ウニ・ヒトデなど

※熱帯亜熱帯地域の生き物が気候変動の影響で浜名湖でもまれに見られる



マダコ

6～10月に産卵。海藤花^{かいとうげ}と呼ばれる。カニ、エビ、アサリがエサ。浜名湖は釣りも盛ん



イイダコ

夏～晩秋に見られる。貝殻に産卵した房状の卵がご飯に似ているため命名された



ヒョウモンダコ

初夏～秋に見られ、興奮するとヒョウ柄になる。唾液や筋肉に猛毒を持つため注意!!



ムラサキウニ

いかり瀬で周年見られ、主に海藻を食べる



スカシカシパン

5～8月に産卵。ウニの仲間で、菓子パンに似ている。いかり瀬で周年見られる



ヒトデ(トケモミジガイ)

肉食性でアサリを食べる。繁殖力が強く、なんと半分に切られても再生する

いかり瀬にすむヤドカリなど、巻貝（周年）



ヤドカリ（コブヨコバサミ）

いかり瀬で周年見られる。雑食でイシダイ釣りのエサにもなる



ホンヤドカリ

2～6月に抱卵する姿が見られる。イボキサゴやウミニナの殻をすみかにする



タマシキゴカイ

いかり瀬でよく見られ、1～6月に産卵。黒や黄色、赤色もある



ウミニナ

初夏から夏に産卵、長い海底トンネルを掘ってプランクトンなどを食べる



アカニシ

周年見られ、6～7月に産卵。浜名湖ではおいしい貝としてよく知られている



ホラガイ

産卵は11～12月。いかり瀬で見られ、古くから楽器として利用していた

いかり瀬で見られる鳥



シギ

秋や春に見られる



アオサギ

冬によく見られるが
年中生息する個体も



オオバン

主に晩秋に飛来す
る



カモ

晩秋～春先まで浜
名湖にたくさんいる



セグロカモメ

晩秋～春先に多く、ま
れに夏にいる個体も



オオセグロカモメ

晩秋～春先に多く、ま
れに夏にいる個体も



ウミウ

晩秋～冬に大群で飛
来。越夏する個体も



ユリカモメ

晩秋～冬にかけて
飛来する



コアジサシ

初夏に飛来し、夏
を越す



ヒバリ

日本では周年見ら
れる

いかり瀬で見られる植物



ハマダイコン

3～5月。串団子よう
な種ができる。約
1500年前の中国由来



ハマエンドウ

4～7月。有毒で、
食べ過ぎると下半
身がマヒすることも



ハマボウフウ

5～7月。昔は食料
として利用された



ハマヒルガオ

5～6月、浜を彩る
海浜植物



コウボウムギ

5～6月に開花。昔は
筆の材料として利用さ
れた(筆=弘法大師)



コウボウシバ

5～6月頃に海岸
の砂浜で見られる



キョウチクトウ

6～7月頃に開花。街
路樹などに利用され
ているが毒性が強い



マツバギク

弁天島のある舞阪町
の花。4～8月に咲き
花の色は白・黄・赤等



ハマゴウ

夏から秋にかけて
開花する



いかり瀬にすむ二枚貝類(冬から夏)



マガキ

冬～春、主に養殖物が水揚げされる。浜名湖のカキは「ブリ丸」と言われ美味



アサリ

4～6月が旬。浜名湖内の漁業の主な水産物で、おいしく人気がある



ハマグリ

3～5月が旬。二枚貝では高級品で、ひな祭りの料理としても有名



アコヤガイ(阿古屋貝)

愛知県阿久比町の古い地名に由来し、採れた真珠を阿古屋珠と呼ばれ阿古屋貝に



シオフキ

潮干狩でよく見かける。出水管から採取時に海水を出す(砂を吐きにくい)



タイラギ

周年見られ貝柱が美味。細い方を下にして海底に潜らせ、ふたの部分を砂から出す



海と日本 PROJECT

このプロジェクトは日本財団

「海と日本プロジェクト」の一環で行っています。

浜名湖無人島

ガイドブック

冊

～無人島にすむいきものたち～

制作監修：海と日本プロジェクト

浜名湖ワンダーレイク・プロジェクト 有識者委員会

委員長 徳増隆二（アマモ研究家・浜名漁協SDGs事業部長）

制作協力：浜名湖体験学習施設 ウォット

NPO法人 浜名湖フォーラム



浜名湖ワンダーレイク・プロジェクト